※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

座 談 会

創立80周年記念歴代理事長座談会

事　　務　　局

開催趣旨　一般社団法人日本知的財産協会は，前身の重陽会が結成されてから，今年度で創立80周年を迎えた。これを記念して，2018年８月21日，JIPA事務所において，2009年度以降に理事長を務められた方々をお招きして，理事長在任時の活動を中心に，特に印象に残っているトピックスと今後のJIPAへの期待について伺った。

目　次

1.　創立80周年を迎えて
2.　2009年度：一般社団法人化の検討を開始
3.　2010年度：WIPO GREENの立上げに貢献
4.　2011年度：海外代表団・調査団派遣を推進
5.　2012年度：五極ユーザー会議へ拡大
6.　2013年度：職務発明タスクフォース
7.　2014年度：一般社団法人化，日中連携強化
8.　2015年度：著作権等の知財の多様性を強化
9.　2016～2017年度：第４次産業革命PJ
10.　2018年度：経営に関わる知財人材を育成
11.　今後のJIPA活動へのアドバイス

＜以下，所属企業・団体名等は当時のもの。＞

出席者

萩原　恒昭氏（2009（平成21）年度理事長，凸版印刷株式会社）
守屋　文彦氏（2010（平成22）年度理事長，ソニー株式会社）
河本　健二氏（2011（平成23）年度理事長，日産自動車株式会社）
奥村　洋一氏（2012（平成24）年度理事長，武田薬品工業株式会社）
上野　剛史氏（2013（平成25）年度理事長，日本アイ・ビー・エム株式会社）
竹本　一志氏（2014（平成26）年度理事長，サントリーホールディングス株式会社）
亀井　正博氏（2015（平成27）年度理事長，富士通株式会社）
近藤　健治氏（2016（平成28）年度及び2017（平成29）年度理事長，トヨタ自動車株式会社）
浅見　正弘氏（2018（平成30）年度理事長，富士フイルム株式会社）
志村　　勇氏（事務局長兼関西事務所長）
司会：**久慈　直登氏**（専務理事）

＜以下，発言者の敬称略。＞

1．創立80周年を迎えて

【久慈】　本日はお忙しいところをご出席いただき，ありがとうございます。今年度は，JIPAの前身である重陽会が1938年９月９日に結成されてから創立80周年を迎える記念すべき年です。今日の座談会は，2009年度以降，現在までの理事長OBに集まっていただき，それぞれ担当された年度ごとに，ご在任時の印象的なJIPAの活動や思い出についてお話しいただくとともに，今後のJIPAに期待することをお伺いできればと思います。

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

2．2009年度：一般社団法人化の検討を開始

【久慈】 まずはリーマンショックが起こったすぐ後の2009年度，萩原さんからお願いします。

【萩原】 当初はアメリカの話かなと思っていたら，日本の方が厳しいという状況になって，2009年度研修の定例コース受講者が約30％減少しました。その対策として臨時コースを新たに12コース追加して受講者数を増やしました。素早い対応をしてくれた人材育成委員会と事務局に感謝しています。

2001年度の澤井理事長のときから政策提言を活発に行うようJIPAは変わりました。

JIPAは2014年度の竹本理事長の時に任意法人から一般社団法人になりました。背景としては公益法人制度改革により，2008年末から一般社団法人を含めて新制度になったので，2009年にJIPA総合戦略会議で移行の検討を開始しました。JIPAの歴史の中では大きなステップだったと思います。

萩原　恒昭氏

【竹本】 法人化の検討は萩原さんが貢献者です。いろいろなご意見が出て３年半ぐらい検討に時間がかかりました。

【萩原】 規則等の見直しや整備に事務局は大変苦労されたと思います。

また合わせて従来のスローガンの見直しを行いました。

実際面では，正副理事長会議をそれまで午前中から行って午後に理事会をしていたのを全て午後に変更しスピード感を持って進めるようにしました。

【久慈】 この年に，新しくUSPTOの長官になったカッポスさんが就任して直ぐ後にJIPAを訪問しました。カッポスさんは，その後もJIPAからの意見書は必ず自分で読むなど，高くJIPAを評価してくれました。

3．2010年度：WIPO GREENの立上げに貢献

【久慈】 2011年３月に東日本大震災がありました。ちょうど理事会当日で関西事務所で開催中，守屋さんが理事長として司会をしている最中でした。

久慈　直登氏

【守屋】 関西でもかなり揺れました。その後，JIPAから特許庁にお願いして，震災被害企業に対して，各国で知財手続きの猶予が実現しました。特許庁はすぐに対応してくれて有り難かったです。

経済的には前年度に引き続き厳しい状況でしたが，専務理事をはじめJIPAの事務局が塗炭の苦しみに耐えて，研修運営などのコストカットを行いました。リーマンショックと震災の後の大変な時期でしたが，結果的にはJIPA運営は一年で黒字に転換できました。

【河本】 Action50-50というのもありましたね。

【萩原】 私が理事長の時に立てた施策で，

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

5,000万円のコストの削減と5,000万円の収入増を目標にしました。

【守屋】 スローガンは，2010年度から現在の「世界から期待され，世界をリードするJIPA」になり，さらに英語で「Creating IP Vision for the World」も新たに追加しました。

グローバルな活動では，JIPAがWIPOに提案したWIPO GREENがいよいよスタートすることになり，これは素晴らしかったと思います。

地方の活動にも力を入れ，フォーラム関西を新たに開催し，評判がとても良かったと思います。グループディスカッションのセッションも非常に活発で，参加して楽しかったです。

守屋　文彦氏

【志村】 フォーラム関西はいまも継続していますが，懇親会では関西役員による仮装大会を実施しており，盛り上がってやっています。(笑)

4．2011年度：海外代表団・調査団派遣を推進

【河本】 2011年度に理事長を拝命しましたが，まだ厳しい状況は続いており，メリハリを付けて進めました。それでも企業単独ではできないようなインド訪問代表団やメキシコ訪問調査団のようなJIPAならではのグローバル活動は心がけて進めました。

JIPAがIIPPF第１プロジェクトの主幹事をしている関係で，当時の中国との良好な関係の下，政府と企業の官民合同ハイレベルミッションを北京と広州に派遣しました。

私の印象に残る思い出としては，小松市で理事会と会長を囲む会を行ったのですが，大雪になり定足数の問題で理事会の成立が危ぶまれました。午後９時頃に定員を満たし，JIPAの結束力の高さに感心しました。

河本　健二氏

【竹本】 私はシンポジウムのリーダーでしたが，東日本大震災の後でもあり，テーマに「がんばろう日本」を入れ，災害のあった岩手からさんさ踊りの皆さんにも来ていただいて，復興に向けみんなで元気を出そうと開催しました。私たちも頑張るから，皆さんも頑張りましょうというミスさんさの挨拶を聞いて，ちょっとうるっときましたね。

大きな被害にあわれ，関係者が被災されたという人も参加されていて，JIPAの仲間意識というか，団体としてのまとまりのよさをつくづくと感じました。

5．2012年度：五極ユーザー会議へ拡大

【奥村】 2012年度の財務状況は徐々に良くなったので，グローバル化をさらに推進し，私もインド訪問代表団の団長として若い人を引き連れていきました。フランスの三極ユーザー会議に参加したときには，三極の長官と議論しているところの写真が地元の新聞に大きく掲載されました。IP５，五極ユーザー会議も始まり，日本開催時には中国と韓国のユーザーも来てくれました。

【上野】 五極ユーザー会議は活発な議論にな

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

りました。

【奥村】 WIPOのフランシス・ガリ事務局長は，2012年度以降，毎年JIPAのシンポジウムに合わせて来日してくれるのですが，その度にお話しさせていただきました。もう６年連続で来てくれています。

2012年度のシンポジウムは名古屋で開催し，アジアをテーマにしてASEANに目を向けるきっかけを作りました。

奥村　洋一氏

【久慈】 ５月の定時総会では，USPTOのカッポス長官から特別講演をいただき，JIPAのグローバル活動への期待等をお伺いしました。

カッポスUSPTO長官
2012年５月　定時総会　特別講演

6．2013年度：職務発明タスクフォース

【上野】 2011年の東日本大震災後には１ドル＝75円台の超円高にもなり，六重苦という表現で経済の大変さが言われていました。2013年度になると，４年ぶりに１ドル＝100円台を回復し，年末には日経平均株価も６年ぶりに16,000円台の高値を付け徐々に明るい兆しが感じられました。経済状況が良くなってきたところで，2009年から数年間かけて検討してきた一般社団法人化の準備が整い，私から竹本さんに引き継ぐタイミングの定時総会で法人になる正式な承認が得られました。

上野　剛史氏

【上野】 同様に数年間にわたる準備期間を経て，WIPO GREENの公式スタートのイベントがスイスのWIPO本部で行われたのが，この2013年でした。当時の理事長だった私がジュネーブのセレモニーに出席しました。WIPO大会議場で向かって中央にフランシス・ガリ事務局長，左側にインド大使，そして右側に私，これに参加できたのは本当に誇らしかったです。これまでの多くの方々の活動の成果が実ったと思いました。私は現在もJIPAのWIPO PJリーダーとしてWIPOとの連携を推進しています。

この年，世界に向けての情報発信として英文メルマガの送信も開始しました。

2013年11月　WIPO GREEN セレモニー

【奥村】 私はこの時期，職務発明PJのリーダ

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

ーになり，経団連や各工業会と共同して，行政，アカデミア，弁護士会，弁理士会等に働きかけました。

【萩原】 関係団体がJIPAを軸にして産業横断的に取り組んだのは画期的でした。

【上野】 産業界が一枚岩になりワンボイスで意見を発信し，情報共有をしながら進めるやり方は，今も第４次産業革命などの対応に活かされていると思います。

先日，高木WIPO事務局長補が来られたときに，JIPAはいろいろな業種の企業がバランスよく参加していて知財の知見が広く得られる世界的にもユニークで素晴らしい団体だと力説されていました。JIPAの意見はWIPO内でもすごく影響力が大きいと期待されています。

【奥村】 EPOのバティステリ長官も日本に来ると大体JIPAを訪問してくれました。

【河本】 JIPAの考え方やビジョンは大きなパワーになるすごい組織だと思います。

【上野】 外資系である日本IBMという企業からJIPA理事長に指名していただき，あらためてJIPAは世界に向けてオープンな団体であることを，私の社内外でも認識を持ってもらうことができ，非常にうれしく思いました。

【久慈】 JIPAの長い歴史の中でもこのような人事は初めてのことでしたが，世界に向けて様々な情報発信をするときに，JIPAはグローバル視点を持っていることを示せたと思います。

7．2014年度：一般社団法人化，日中連携強化

【久慈】 2014年度は一般社団法人化が定時総会で承認され，経済も元に戻り，いろいろなことが軌道に乗った年になりました。

【竹本】 私はもう25年ほどJIPA活動に参加しています。理事長を務めたこの１年，業種別部会，委員会と地区協議会はほぼ網羅して見に行きましたが，感じたのはやはりこれらがJIPAの礎で，きちんとフォローして基盤を常に保っておくことが一番重要だということです。業種別部会は皆さん非常に仲がよく，集まりを大切にされて，いろいろな講師を呼んで研鑽に努めていました。

竹本　一志氏

【竹本】 地方創生の点では，中国地方の活動強化のため広島県発明協会と連携して，研修活動の推進をしました。今でも引き続き連携し広島県発明協会はサテライト研修の会場になっています。

また，企業のグローバル対応はますます重要になってきたので，JIPAはその勉強のためのグローバル研修を組み直しました。

国際協力の面では，日中企業連携PJが2005年の開始から14年間，日中企業の連携会議を継続して取り組んできました。

2015年３月　広州日中企業連携会議

【萩原】 それは，竹本さんの貢献と熱意が大きいです。

【竹本】 中国は，２，３年もするとアメリカ

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

を抜いてPCTで出願数がトップになるかもしれません。国際的な立場を上げている中国との連携は益々重要です。私は現在も日中企業連携PJリーダーですので，今年は，中国の企業と交流を更に深める企画を検討しています。

【久慈】 これはJIPAにとって，すごくいい財産になっています。

【河本】 竹本さんが続けてきた人脈形成が重要なファクターですね。

【竹本】 日中企業連携のプラットフォームはうまくできあがってきていますので，これからも発展的な継続が可能だと思います。

8．2015年度：著作権等の知財の多様性を強化

【亀井】 私はJIPAのかつてのマルチメディア委員会から参加し，常務理事，副理事長をやらせていただき，2015年の理事長に就任しました。ちょうど職務発明に関する改正特許法が2016年４月，営業秘密に関する不正競争防止法改正が2016年１月と施行直前でした。我々の成果でもあり，会員が内容を正確に認識するタイミングでしたので，研修を精力的に行いました。

2017年はデータ保護の議論が浮上しました。特許に加えて，著作権研究も行いました。多様な情報を共有するとイノベーションにつながるという思いがあります。

シンポジウムでは市場創生と多様な知財をテーマにして計画し，「くまモン」まで参加してくれました（笑）。現在も私は次世代コンテンツ政策PJリーダーとして活動しています。著作権法の改正は，産業界の声がワンボイスになるよう努力しました。

【奥村】 産業界でまとまるときは，JIPAにも経団連にもつながっている参与（元理事長）は動きやすいです。

【亀井】 この年は各国の特許庁の要人が多く来られ，JIPA田中会長にも多くの方にお会いいただきました。

亀井　正博氏

【久慈】 メキシコ，フランス，イギリス，インドの長官，アメリカ，ドイツ，EPOの副長官が，１年のうちに来られました。

9．2016～2017年度：第４次産業革命PJ

【近藤】 2016～2017年度のキーワードは第４次産業革命です。大変だ，重要だといわれる中で，答えのないところを模索していました。私は現在も第４次産業革命PJリーダーとして活動しています。

近藤　健治氏

【近藤】 理事長を２年務める前例は過去にありますが，いざ自分がやってみると，やはり１年目の経験を生かしてできる分，活動が広く深くなると思いました。IP3やIP5への参加，そして日中企業連携PJでは10年目の節目の会議に参加したりと，これまで皆さんが築かれてきたことに参画できたことに加え，いろいろと新しい試みもできたと思います。

箱根で開催された三極特許庁長官・ユーザ会

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

合では，宗像長官と共同議長を務めました。

2018年３月　三極特許庁長官・ユーザ会合

【近藤】 会員を増やすため，パンフレットと合わせて，親しみやすく「季刊じぱ」を作って，広報活動をしました。また，関西や中四国九州の協議会そして様々な部会に参加し，いろいろな多くの方からお話を聞くことができました。

【志村】 近藤さんの代にサテライト研修も始めました。

【近藤】 これも関東・関西から離れた地域の会員には画期的でしたね。実会場にいるのと変わらない臨場感があります。これにより，より多くの会員企業の方々が容易に研修を受けられるようになることを期待します。

【久慈】 さらに新しい試みとしては青山の国連大学で経営者向けのシンポジウムを行い，経営者向けに知財をうまく使ってもらおうというメッセージを出しました。

10．2018年度：経営に関わる知財人材を育成

【久慈】 浅見現理事長は今，就任後３か月を経過してきたところですが，皆さんのお話を聞いたご感想はいかがですか。

【浅見】 私にとってのJIPAとの関わりで言いますと，2007年頃に産学連携を話し合う会に参加しました。その後で一度R&Dに戻り，2015年にまた知財部門に戻りました。

2017年１月のシンポジウムで上野さんからパネラーとしての登壇を依頼されて，素材系企業にとってのIoTの話をしました。そのご縁もあってか2017年度に副会長に就任し，2018年度には理事長をお引受けすることになりました。

これまでの経験から強く思うのですが，会社の戦略は知財の観点が入らないと成り立たないでしょう。そういう志を持った知財人材を育成して，元気を出して経営に関わっていけるように，JIPAの立場で推進していきます。

第４次産業革命は，社会構造も含めてビジネス上のいろいろな事がものすごく変わると心配しています。委員会やプロジェクトの力を結集して取り組んでいきたいと考えています。

浅見　正弘氏

11．今後のJIPA活動へのアドバイス

【久慈】 最後に，浅見現理事長がいらっしゃいますので，是非先輩方から，これからのJIPAに期待することをお話しいただければと思います。

【萩原】 JIPAのいいところは，活動が継続しているところで，諸外国からも信頼されていると思います。近年経団連との関係も緊密で，一緒にやっていくことは産業界として非常に大切だと思います。知財実務と経営がうまくかみ合っていけるように，今後もこのような取り組みも継続しながら，高めていってください。

【竹本】 また，JIPAのいいところは，経済

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

不況や大震災のときの活動に見られたように，人と人の関係を礎にした，業界を超えた団結力にあると思います。

【守屋】 現理事長は，研究部門と知財部門でトップマネジメントを経験されており，経営者の視点から，知財戦略がどうあるべきかを積極的に発信していただきたいです。

JIPAのメンバーがすばらしい知財の活用を実現できる施策を期待しております。

【河本】 働き方改革をJIPAでも取り組んでいただき，いかに地方からもうまくアクセスさせるか，人が移動しないでどのように会議を行うかも検討していただきたい。移動時間は無駄なので，それ以外に資金を使ったほうがいいと思います。

今，世の中は大きく変わっていて，自動車業界では，100年に１度の技術革新を迎えていますが，経営に資する知財，イノベーションに対する貢献という観点から，知財活動のあり方についても，テーマで上げて検討してもらえればいいと思います。

【浅見】 JIPAの中でも，できるだけ若い人たちの間でそうした経営や事業戦略の議論ができて，皆が元気になって，それぞれの会社に仕掛けてもらうのはいいと思います。

【志村】 第４次産業革命を迎えて，知財としてどうしていくかは，知財管理誌2018年４月特集号にも書かれていて，その研修も行われています。特許出願だけではなく，それ以外でも知財として入り込む方向に進むべきと思います。

志村　勇氏

【奥村】 経営幹部と常に密にコミュニケーションができていればいいのですが，大企業では，知財部門が経営に役立つのは，結構難しいところがあると思います。今ベンチャーの社長をやっていますが，日本の産業界全体のためには，知財をやってきた人がもっと社長をやればいいと思っています。

そのための研修を行い，モチベーションを高めて，JIPAの活動をやった人がどんどん社長になればいいと思います。かなり数が出てきたら，成功する人も出てくるので，JIPAで勉強し知財の知識があるので経営ができ，それで成功したとPRすればいいです。

【浅見】 アプローチとしてはよく考えないといけないと思いますが，中身としては，非常に大事なことですね。

【久慈】 日本のベンチャーの経営者は知財の知識が少ないことが課題だといわれています。

【近藤】 大企業だけでなく幅広い会員がメリットを感じられる，会員から喜ばれる活動を是非考えてやってほしいです。

【萩原】 スタートアップやベンチャーに出資することが多いですが，ほとんど知財戦略を持っておらず，できていません。

【亀井】 浅見さんはいろいろなご経験をされ，非常に視野を広くお持ちなので，知財村の枠を外に向かって開放する場を作っていただき，違う視点を盛り込めるような戦略的に種を仕込む場ができてほしいです。

【上野】 JIPAのスローガンにも込められていますが，益々大きな存在感を世界で発揮できるように，引き続き提言や情報発信を行い，それを行える人材の育成にも取り組んでいっていただきたいです。

【浅見】 諸先輩方のお話を聞いて，そういう期待があるということは，非常にうれしいことですし，頑張っていかなければいけないと思います。萩原現副会長をはじめ理事長OBの皆様

※本文の複製、転載、改変、再配布を禁止します。

のご指導のもと，JIPAとして日本の産業のために貢献できるようにしていきたいと思いますので，よろしくお願いいたします。

【久慈】 皆さん，本日は80周年記念座談会へのご出席とお話し，ありがとうございました。